



## 真夏の空の下 涼を求めて

8/5 豊科南部総合公園噴水広場

猛暑日が連日記録された今年の夏。豊科南部総合公園は、芝生で遊ぶ子どもたちや木陰で涼む家族連れなどでにぎわいました。人気を集めていたのは、3月にリニューアルした噴水広場。夏の日差しが照り付ける中、子どもたちが噴水内を自由に駆け回る姿が見られました。特に噴水から霧状の水が吹き出すタイミングには、子どもたちのまぶしい笑顔が水しぶきとともに輝いていました。

松本市から訪れた黒田芽衣さん・康史郎くん親子は「暑い夏に外遊びできる涼しい場所があって嬉しい」と話し、夏ならではのひと時を過ごしていました。

## 幽玄の舞 3年ぶりの披露

8/20 第31回信州安曇野能楽鑑賞会

新型コロナの影響で中止が続き、3年ぶりの開催となった信州安曇野能楽鑑賞会（実行委員会主催）が豊科公民館ホールで行われました。能楽師の青木道喜さんや狂言師の野村萬さんらが出演し、舞囃子「熊坂」、能「松風」、狂言「茶壺」、半能「山姥」を披露。訪れた約430人が幽玄の世界を堪能しました。

当日は、青木さんが指導する安曇野子ども能楽教室による仕舞やこども能「土蜘蛛」も発表され、土蜘蛛の役を演じた百瀬瑞羽さん（堀金小6年）は「家で何度も動画を見ながら糸の投げ方やタイミングを練習してきた。本番は緊張したけど、糸がうまく投げられた」と、共演した子どもたちと舞台での成功を喜び合っていました。



## 五感を使って 森を体感

8/20 さんねんないきもの事典監修 今泉忠明先生フィールドワーク

明科潮沢にあるけやきの森自然園で自然観察会が行われ、県内をはじめ、首都圏などから13家族32人が参加しました。講師を務めたのは、児童書『さんねんないきもの事典』の監修を手掛けた動物学者の今泉忠明さん。今泉さんは、「目だけでなく、森では足の裏、耳や鼻の感覚を使って、自然を感じてほしい」と子どもたちに声をかけました。その後、班に分かれてガイドの案内で山を歩き、葉っぱや花、虫などを自由に採取しました。

家族5人で参加し、昆虫が好きで普段から虫とりをしているという加藤春来くん（穂高南小3年）は、家族5人で参加。「セミを捕まえたり、ナナフシを見つけたりと楽しかった。動物が通るけもの道もたくさん見つけられた」と満足そうな表情で話してくれました。



## 長寿の秘けつは「一日一日を大事に」

9/5 市内最高齢者2人に敬老のお祝い品を贈呈

9月19日の「敬老の日」を前に、太田市長は市内の男性最高齢の林榮一さん（103歳）と、女性最高齢の山口清子さん（108歳）のもとを訪れ、長寿を祝いました。

一昨年から男性最高齢となっている林さんは「105歳になることが目標。一日一日を大事に暮らし、今日より明日、明日よりあさってと頑張って生きていきたい」と思いを話してくれました。

市は、高齢者の皆さんのますますの長寿を願い、本年度88歳に達する637人と100歳に達する50人にも記念品を贈ります。



## Bリーグの迫力プレー 間近に体感

9/10 信州ブレブウォリアーズ 対 横浜エクセレンス

ANCアリーナで、プロバスケットボール男子Bリーグの信州ブレブウォリアーズと横浜エクセレンスのプレシーズンマッチが行われました。Bリーグの試合が市内で行われるのは2016年以来6年ぶりでANCアリーナでは初めて。当日は1,890人が来場し、プロ選手の迫力あるプレーに手拍子で声援を送っていました。また、コート上のモップがけを豊科高校バスケット部の皆さんが担当し、スムーズな試合運営を支えました。

松本市から観戦に訪れた百瀬邦幸さんと航聖くん（10歳）は「生で試合を見るのは初めて。大きな選手が打つスリーポイントシュートがたくさん入るところが見られてワクワクした」と話しました。

